

# 国語科 授業改善推進プラン

## 1 学力効果測定結果

- ・この3年間は、知識・技能の習得に重点を置いて授業改善を行っていたので、第5学年と第6学年が目標値を超えた正答率だった。このことから、校内研究の成果が一定程度あったと言える。
- ・どの学年も「書くこと」の平均正答率が極端に低く、無回答者も多く、主体性が低いという課題がある。特に、文の書き抜きではなく、自分の考えを用いた文章を書くことを苦手としている。
- ・知識・技能の習得に重点を置いて授業改善をしてきた結果、平均正答率の向上が見受けられたため、校内研究の成果があるといえる。

## 2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
	・ひらがなを書いたり読んだりすることはできるが、長音、拗音、促音、撥音、助詞「はをへ」の表記をする力が身に付いていない。	・問題文の読解が苦手な児童が多く、問題自体を理解することが困難なことがある。 ・漢字に興味があり、繰り返し練習して、定着してきた児童が多いが、定着に時間がかかる児童もいる。	・問題文の読解を苦手とする児童が多く、問題自体を理解することが困難なことがある。 ・漢字に興味があり、繰り返し練習して、定着してきた児童は多いが、書き取りに苦手意識のある児童もいる。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童が多く、反復練習をする必要がある。 ・問題文を理解することが困難な児童が多い。また、理解できても自分の考えを正しい言葉を使って表すことが苦手である。	・自分の考えを文章に表すことが苦手である。ただし、構成や話型が提示してある時は、円滑に書くことができる。 ・説明文の読み取りがとても苦手である。物語文においては、共感を得やすい教材文の時は、関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。	・正答率が一番高いのは、漢字を読むことである。 ・誤答率が一番高いのは、説明文の内容を読み取ることである。 ・20%以上の児童が文章を書く項目を無回答としている。また、日頃から文章を書くという活動を苦手としている児童が多い。
研究	・音読と視写を通して、書かれていることの概要を捉えられるようにする。	・音読、視写、読書を通して読むことの経験を増やし語彙や読み取る力を付けていく。	・内容理解の前提として、文字を言葉のまとまりとして正しく認識できるように、音読と視写に取り組む。	・先行学習で、全文視写に取り組みせ学習の見通しをもたせる。	・先行学習で、全文視写と音読に取り組むことにより、教材の大まかな内容を捉える。	・全文視写で、教材の内容の大体を捉えられるようにする。 ・分からない言葉は国語辞典で調べることによって語彙力を高める。

## 3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・文字や助詞の表記、改行等を正しく文中で使うことができるように、「かくってたのしいね」等を活用して、書く機会を増やす。 ・関連図書の活用や読み聞かせを通して、読書の幅を広げる。	・小テストによる漢字の反復練習に取り組む。 ・書写ワーク・「書くって楽しいね」等に取り組む中で、読んだり書いたりする基本（助詞・句読点・かぎ「」・の正しい使い方）を身に付けさせる。	・「書くって楽しいね」の継続活用 ・文章を書いたり、自分の考えを話したりする場面では、言語による表現に慣れるように、文型・話型を示し、それに沿って表現するように助言する。 ・文章の中で主述を意識しやすいように、色でマーキングするなど視覚的に認識できるようにする。 ・定期的に漢字小テストを実施する。	・「書くって楽しいね」の継続活用 ・既習漢字・進出漢字の定着のため、再テストや反復練習を行う。また、読書の推進を行い、語彙力の向上に努める。他にも、国語辞典を活用し、進出漢字の熟語の意味調べを行う。 ・教材文を扱う際には、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開を読み取る授業展開にする。	・「書くって楽しいね」の継続活用 ・既習漢字・新出漢字の定着のため、再テストなど、反復練習に取り組む。 ・語彙を増やすために、単元の初めには国語辞典で言葉調べをする。 ・文章を作る時に、話型を提示するなどして、構成を定着させる。	・「書くって楽しいね」の継続活用 ・既習の漢字を使って文を書くことを徹底する。 ・漢字テスト後に再テストを行い、定着力を上げる。 ・文章を作る時に、文字数（200字等）や話型を提示するなどして、文章校正に慣れさせる。
判断・表現 思考・	・話し合う機会を設けて、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。	・グループの活動を取り入れ、友達の発言と自分の考えの共通点、相違点に気づき、指摘することができる。	・文章の中で重要な語や文を考えて選び出すことができるように、デジタル教科書を活用し全体で本文を確認しながら進める。	・発言や話し合いをする際は、相手が知らないことについては、丁寧に理由付けをしたり相手にとって理解しやすい事例をあげたりする機会を設ける。	・グループ活動を通して、様々な考え・表現を知り、学習の幅を広げていく。	・朝学習で長文読解の演習を行い、筆者の主張や文章構成を捉える機会を増やす。
主体的に学習に取り組む 態度	・物語文の挿絵や説明文に出てくる物の写真や実物を提示して関心を高めさせる。 ・単元のめあてを示すことで、学習の要点を意識させる。	・登場人物の心情や、情景を読み取るための視点を示すことで、見通しをもって課題に取り組めるようにする。	・相手意識をもって主体的に表現活動ができるように、表現活動の際には目的と相手を明確にする。	・児童らの日常生活の経験と結び付けて導入を行うとともに、見通しとゴールイメージをもたせることで主体性を高める。	・高学年になり、長文が増えて内容を捉えるのに、時間がかかってしまう。文章の面白さを捉えて学習に取り組ませていく。	・漢字の読み書きや語彙の地盤を高めることで、言葉がもつよさを認識させるとともに、それぞれが感じた思いや考えを受容しやすい雰囲気をつくっていく。

※太枠内は、重視する内容